法政大学学術機関リポジトリ
HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-11

【図書紹介】『ＱＯＬって何だろう 医療とケアの生命倫理』小林亜津子著　ちくまプリマー新書　二〇一八年

OMORI, Ichizo / 大森, 一三

(出版者 / Publisher)
法政哲学会
(雑誌名 / Journal or Publication Title)
HOSEI TETSUGAKU : BULLETIN OF HOSEI SOCIETY FOR PHILOSOPHY / 法政哲学
(巻 / Volume)
16
(開始ページ / Start Page)
89
(終了ページ / End Page)
89
(発行年 / Year)
2020-03-30

【図書紹介】

『ＱＯＬって何だろう　医療とケアの生命倫理』

小林亜津子著　ちくまプリマー新書　二〇一八年

大森　一三

いつからだろうか。いくつかの出版社の新書文庫では「○○とは何か?」あるいは「○○を問い直す」というタイトルが一つのシリーズになっている。大体において、そのテーマに詳しい著者が、平易な言葉で、そのテーマについての歴史や一般的な知識、議論のトピックなどを論じているのがこのシリーズの定番だ。

『ＱＯＬって何だろう』と題された本書は、こうした「定番」の範疇を超えている。というのも、本書では、たんに生命倫理学の基本タームの一つである「ＱＯＬ(Quality of Life)」についての歴史や解説だけが書かれているわけではないからだ。「ＱＯＬ」は本書を通じた導きの糸とはなっているものの、本書では現代医療の現場（それは病院だけではなく、地域社会や家庭である）で生じている様々な生命倫理の諸問題が包括的に論じられ、それらに関する倫理的ジレンマが浮き彫りにされている。

本書の構成は、序章と六つの章から成っている。第一章と第二章では、医療技術の発達と「人生一〇〇年時代」とも言われる今日の高齢化社会の中でのＱＯＬを巡る現状やジレンマが扱われる。第三章では地域包括ケアの観点から医療とＱＯＬの変化について、第四章では自分の意思を伝えられない場合のＱＯＬについて、第五章では家族との関わりの中での自己決定とＱＯＬについて、第六章では終末期医療、看取りとＱＯＬを巡る諸々の出来事について論述が展開されている。そして、評者が見るところ、このうち第三章から第六章の背後には「自律」概念がもう一つのテーマとして隠されている。哲学、倫理学が重視してきた伝統的な「自律」概念を、今日の社会でどのように考え直してゆくかという課題にも本書は取り組んでいるのだ。

およそ書物を著す意義は様々にあるが、その一つは読者に人生に対する先智慧を与えることだろう。人生で直接的、間接的に出会う出来事や経験に対して、書物は様々な形で読者に疑似体験をさせ、その出来事や問題に対する思考を促す。本書の各章で扱われる事柄はどれも今日の「私たち」が直接的・間接的に経験する現実であり、本書を通じて読者は、近親者や友人あるいは自分自身の「老い」や「死」に関連する諸々の出来事やジレンマに対する思考を促され、何らかの先智慧を得ることになるだろう。その意味で、本書はある種の知的啓蒙の書という範疇を大きく超えて、人生に対する同伴の書でもあるのだ。